

第1章 鉄道交通事故の動向

1 近年の運転事故の状況

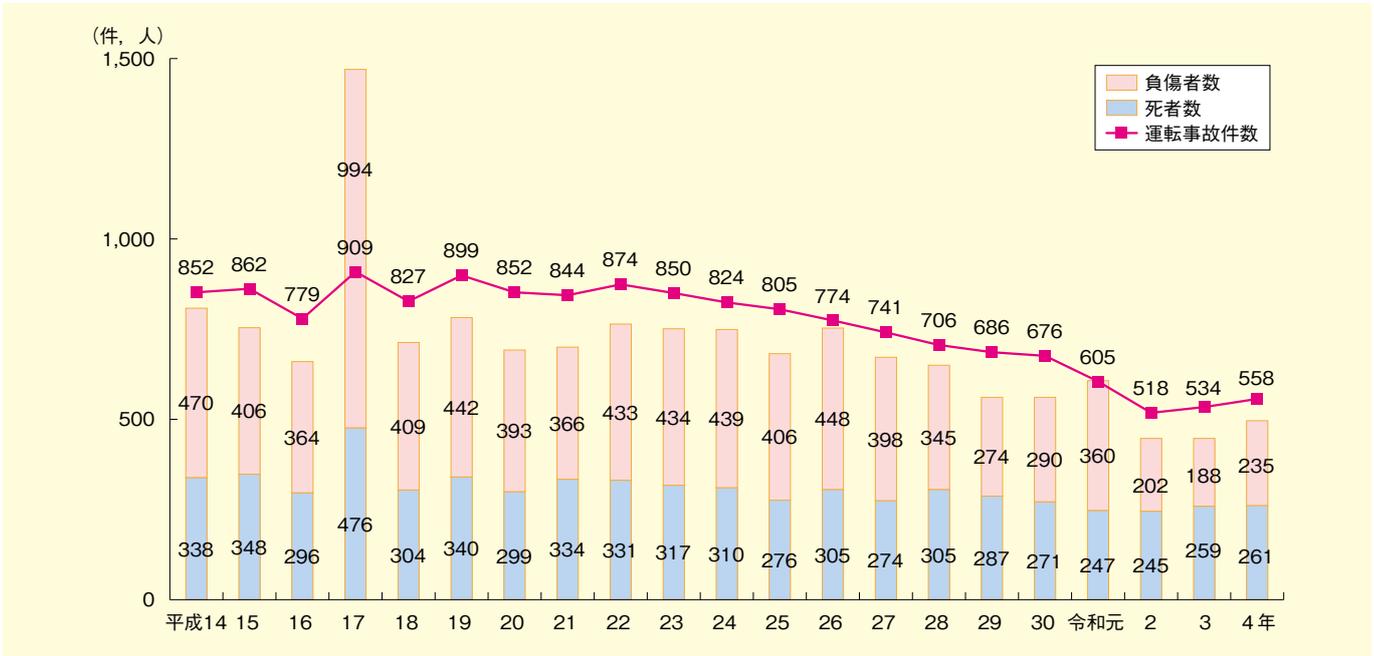
鉄道交通における運転事故<sup>※</sup>は、平成14年に852件であったものが、24年には824件、令和4年には558件となっており、長期的には減少傾向にある（第1-44図）。

事故種類別の運転事故発生状況は、第1-30表

のとおりであり、人身障害が半数を超えている。

運転事故による死者数は、第1-44図のとおりであり、乗客の死者数はゼロであった。平成17年に発生したJR東日本羽越線列車脱線事故以降、運転事故による乗客の死者は発生していない。

第1-44図 運転事故の件数と死傷者数の推移



注 1 国土交通省資料による。  
2 死者数は24時間死者。

第1-30表 事故種類別の運転事故の発生状況

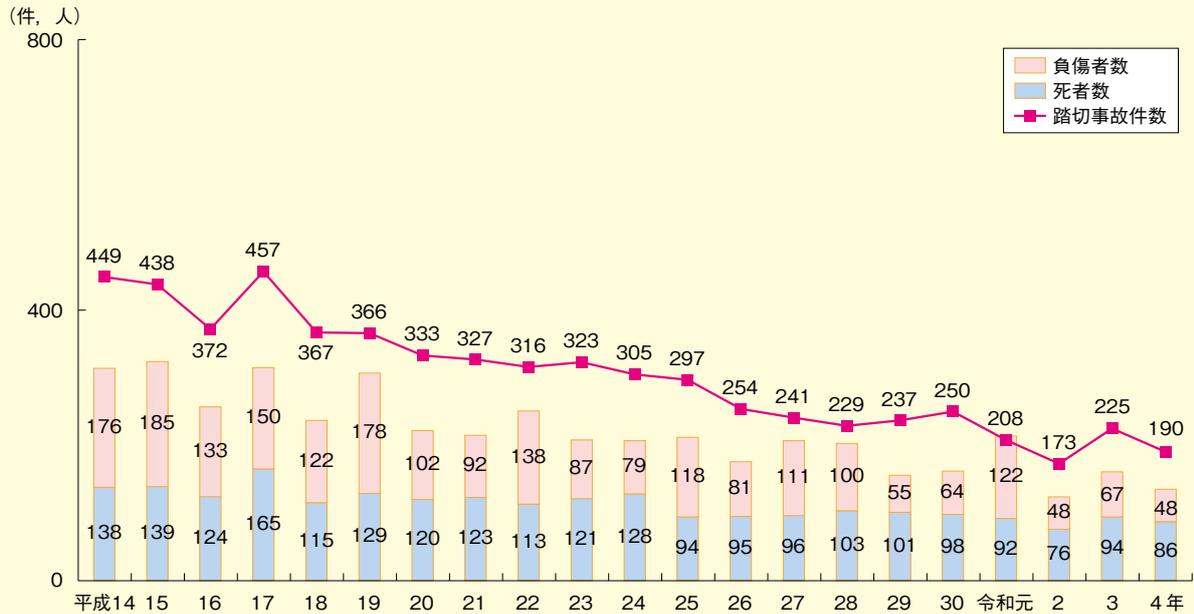
区分	列車事故				その他の事故					合計
	列車衝突	列車脱線	列車火災	小計	踏切障害	道路障害	人身障害	物損	小計	
件数(件)	3	9	0	12	190	30	320	6	546	558
	0.5%	1.6%	0.0%	2.2%	34.1%	5.4%	57.3%	1.1%	97.8%	100.0%
死傷者(人)	7	8	0	15	134	17	330		481	496
	(0)	(0)	(0)	(0)	(86)	(0)	(175)		(261)	(261)

注 1 ( ) 内は、死亡者で死傷者の内数である。  
2 踏切障害とは、踏切道において列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し、又は接触した事故のうち列車事故に至らなかったもの。  
3 道路障害とは、踏切道以外の道路において、列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し、又は接触した事故のうち列車事故に至らなかったもの。  
4 人身障害とは、列車又は車両の運転により人の死傷を生じた事故をいう(列車事故、踏切障害及び道路障害を除く)。  
5 物損とは、列車又は車両の運転により500万円以上の物損を生じた事故をいう(列車事故、踏切障害、道路障害及び人身障害を除く)。

※運転事故

列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故及び鉄道物損事故をいう。なお、軌道の運転事故は、鉄道運転事故と同様に定義する。

第1-45図 踏切事故の件数と死傷者数の推移



注 1 国土交通省資料による。  
2 死者数は24時間死者。

2 令和4年中の列車事故の状況

列車事故（運転事故のうち列車衝突事故，列車脱線事故及び列車火災事故をいう。）は，第1-30表のとおりである。

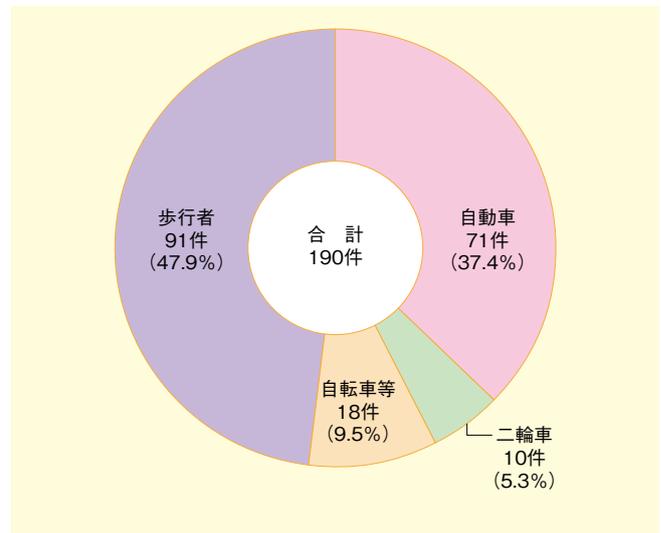
3 令和4年中の踏切事故の状況

踏切事故<sup>※</sup>は，踏切保安設備の整備等により，平成14年に449件であったものが，24年には305件，令和4年には190件となっており，長期的には減少傾向にある（第1-45図）。

衝撃物別の踏切事故発生件数は，第1-46図のとおりであり，歩行者による事故件数が約半数を占めている。

また，第1種踏切道での事故件数が約9割を占めているが，踏切道100か所当たりでは第1種踏切道が第3，4種踏切道の合計件数より少なくなっている（第1-31表）。

第1-46図 衝撃物別踏切事故発生件数（令和4年）



注 国土交通省資料による。

※踏切事故

列車事故のうち，踏切道において，列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し，又は接触した事故及び踏切障害事故をいう。

第1-31表 踏切道種別の踏切事故発生件数

(令和4年)

踏切道	踏切道数	構成率 (踏切道)	事故件数	100か所当たり の事故件数
	か所	%	件	件
第1種	29,473	90.6	166	0.56
第2種	—	—	—	—
第3種	612	1.9	6	0.98
第4種	2,455	7.5	18	0.73
計	32,540	100.0	190	0.58
(参考) 第3,4種 計	3,067	9.4	24	0.78

- 注 1 国土交通省資料による。  
 2 踏切道種別は、次による。  
 第1種 自動遮断機が設置されている踏切道又は踏切保安係が遮断機を操作している踏切道  
 第3種 遮断機はないが警報機が設置されている踏切道  
 第4種 踏切保安係もおらず、遮断機も警報機も設置されていない踏切道  
 第2種については、現在設置されているものはない。  
 3 踏切道数は、令和3年度末の数字である。  
 4 100か所当たり件数とは、踏切道100か所当たりの踏切事故件数である。

#### 4 人身障害事故の発生状況

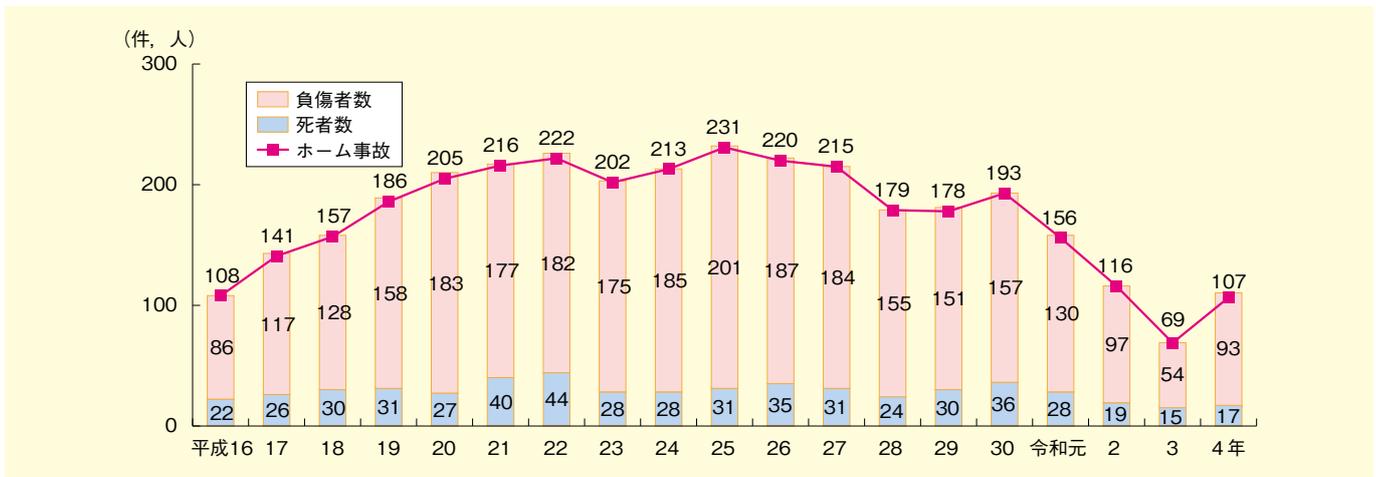
令和4年の人身障害事故は、320件で前年比20.3%増、死者数は175人で前年比6.1%増であった(第1-30表)。このうちホームから転落して又はホーム上で列車と接触して死傷する事故(ホーム事故)は、増加したものの、平成30年以降減少傾向にある(第1-47図)。

なお、ホーム事故のうち、酔客による事故件数は47件で、全体の約44.0%を占めている。

#### 5 令和4年中の鉄道交通における重大事故の発生状況

令和4年3月16日にJR東日本の東北新幹線福島駅～白石蔵王駅間において、福島県沖で発生した地震により列車のうち16両が脱線し、乗客6名が負傷した(第1-32表)。

第1-47図 ホーム事故の件数と死傷者数の推移



- 注 1 国土交通省資料による。  
 2 死者数は24時間死者。

第1-32表 重大事故一覧

発生月日	事業者名	線名・場所	事故種類	死傷者数	脱線両数	主原因及び概要
3/16	東日本旅客鉄道	東北新幹線 福島駅～白石蔵王駅間	列車脱線事故	6人 (0人)	16両	福島県沖で発生した地震の影響による。

- 注 1 国土交通省資料による。  
 2 重大事故とは、死傷者が10名以上又は脱線両数が10両以上生じた事故をいう。  
 3 死傷者数の( )内は、死亡者で死傷者の内数である。